

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都大田区東嶺町 5-17
園名	アスクおんたけ保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

国旗

<テーマの設定理由>

もともと料理などの世界の文化に関する取り組みをおこなっていたため、こどもたちの興味を広げることができると考えたため

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回ネイティブの講師を招致し他国の文化に直接触れる機会を創出することで深く探究活動ができるようにする

11月：日本のもの（お寿司、富士山など）を知る

12月：アメリカのもの（ピザ、自由の女神など）を知る

1月：国旗の中にいる動物や形に着目する。オリジナルの国旗を作成する。

2月：国旗の色について探求を深める。

3月：いくつかの国旗を見比べ、色やマークについて探求をする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

国旗カード

国旗絵本

世界地図

地球儀

世界のことば遊び絵本

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

11月：まずは日本にはどんなものがあるのかイラストで探していった

12月：日本以外の国（アメリカ）にはどんなものがあるのかイラストで探していった。

1月：国旗カードを見て、国旗に隠れている動物やマークを見つけ教え合った

2月：国旗の塗り絵を準備し、思い思いに塗り見せあった

3月：様々な国旗を見たうえで楽しみながら特徴を覚えていった

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【3歳児】

憧れの年中・年長児の部屋にある国旗カードを使えるとあって、楽しみながら活動していた。「日本はお寿司でアメリカはハンバーガー。」「この国旗は星がいっぱいあるけどこっちは緑と赤しかない」など、子どもたちは気が付いたことを口々に言い合う姿があった。保育者は子どもの声を拾い、全体に共有して発言をしやすくしたり学びを全体で深めたりしていった。

塗り絵をするときには、決まった色で塗っていなくても、選んだ色や塗り方について認め、楽しく活動できるよう配慮した。

【4歳児】

子どもたちはもともと国旗に興味があったこともあり、すくわく活動も楽しんで取り組む姿があった。

アメリカと日本のもののイラストを見た時に「自由の女神、知ってるよ。」と声が上がったので、「よく知っているね」と声を掛け、全体に共有するとともに成功例として子どもたちに示せるよう工夫した。

国旗に触れるうちに、保育室内に設定した世界地図や地球儀に触れる時間も長くなり、知りたい気持ちがある様子であった。

【5 歳児】

子どもたちはもともと国旗に興味があったこともあり、すくわく活動も楽しんで取り組む姿があった。

オリジナル国旗作成の際には、各グループで「アメリカの国旗に似ているね」「スイスの色が好きだから同じ色にしようかな」などと話す姿があった。

国名だけではなく、韓国ならチュモツパ、アメリカならパンブキンパイなどの伝統料理や挨拶の言葉など知っている知識を互いに言い合う場面があった。保育者は子どもたちの調べたい気持ちにこたえ、本や世界地図などを設置するなど、環境構成に力を入れた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【3 歳児】

年上の子への憧れから、取り掛かりはとても早く楽しんで活動していた。

年齢的なこともあり、途中で飽きてしまう子はいたものの、いやでやめたというよりは満足してやめた、といった印象。

国旗について遊びながら触れることで、世界への興味につながっていったと感じる。

【4 歳児】

もともと国旗カードで遊んでいたこともあり、自然に活動に取り組めている様子であった。環境ひとつで子どもたちの調べたい気持ちに拍車を掛けたり満足させることができたりするので、今後も子どもの興味がありそうなものはいち早く察知し設定していきたいと感じた。

【5 歳児】

保育者が驚くほど子どもたちの興味や記憶が続き、得意になって取り組みができた。子どもたちも「わかる」「できる」体験が自信につながり、表情を輝かせていたのだと感じる。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都大田区東嶺町 5-17
園名	アスクおんたけ保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音の鳴る仕組み

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

以前、食器を覆っていたラップに空気を入れて破裂させる遊びに子どもが興味を持ったことがあった。破裂音に惹かれたことから、様々な音を知り楽しむ素地をはぐくむ。

2. 活動スケジュール

1 1月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。

11月：“オノマトペ”について探求をする

12月：音からオノマトペを当てはめて表現する

1月：廃材を使ってピアノに合わせて音を出す

2月：音の鳴る仕組みを考える

3月：どこからどんな音が出ているのか感じる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

ピアノ
ペットボトル
トライアングル
たいこ
ザル 割りばし 輪ゴム
アゴゴウッド
スネアドラム
ミュージックパッド
ハンドベル・ベル
エッグチャチャ
木琴
ミュージックポンプ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

11月：イラストからオノマトペを想像し表現する
12月：ペットボトルを割りばしでたたいたりこすったりしてピアノに合わせて音を出す。
1月：音の振動を感じる
2月：体鳴楽器、膜鳴楽器、弦鳴楽器、気鳴楽器、電鳴楽器などの種類を知る
3月：どこが震えて音が鳴っているのか確かめる

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【5歳児】

オノマトペの概念を知り、見つけるスピードが早くなっていった。保育者が「あれはどうかかな。」と声を掛けるとすぐさま反応し、考えを表現していた。

身近な素材を使って音を出す取り組みでは、叩く・こするだけでも違う音が出ていて興味深そうに繰り返し行っていた。

食事中に野菜を食べた子が「『シャクシャク』って聞こえるよ。」とクラスの皆に伝えると、オノマトペだと気づき、給食の食材の食感や家での体験談へと話題が広まっていた。

【4歳児】

絵本『がちゃがちゃどんどん』を読み聞かせると自然と「がちゃがちゃ」「どんどん」などと復唱する姿があった。「星はきらきら」「パンケーキはフワフワ、べたべた」などと、これまでの知識や生活体験からオノマトペを口にする姿が目立っていた。活動を進めていくと、少しずつ生活音を聞いて自分で表現しようとする姿に変化していった。

いろいろな音を聴き比べた際はある音を聞いて廃材を使い再現することに苦戦。「これじゃない?・・・ちがうな。」「たたくみたいな音だったよね?」などと言いながら、結局正解に導けずとも、正解を聞くと「それだ!」と嬉しそうであった。

【3歳児】

オノマトペを知ると、散歩のときなどに「風がザーって鳴ってる」「サワサワじゃない」「さらさらって言ってる」子ども同士で意見を言い合う姿があった。保育者は「どれにも聞こえるね、不思議」と声を掛け、必ずしもみんな同じではないということを伝えつつ、その姿を認めていった。

また、楽器に触れると「ビリビリしてる」と笑いながら振動を感じたことを表現し、全員楽器に触れることが楽しみになった様子であった。保育者は子どもの言葉を繰り返しながら、「どうしてなんだろうね。」と声を掛け、探求につながる思考の癖付けを行った。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【5歳児】

体鳴楽器、膜鳴楽器、弦鳴楽器、気鳴楽器、電鳴楽器など、大人でも聞きなじみのない言葉をよく覚えられていると感心した。

また、活動中は「どうして音が鳴るんだろう。」と問い続けることで、子どもたちの意識

に根付かせる工夫をしていった。さらに「〇〇の部分はどうか」「手を離すとどうなるかな」など、一步踏み込んで試し行動ができるような声掛けをした。

素材や鳴らし方によっては音も鳴る仕組みも変わり、子どもも大人も発見のある活動だった。

【4 歳児】

絵本『がちゃがちゃどんどん』を読み聞かせると自然と「がちゃがちゃ」「どんどん」などと復唱する姿があった。「星はきらきら」「パンケーキはフワフワ、べたべた」などと、これまでの知識や生活体験からオノマトペを口にする姿が目立っていた。活動を進めていくと、少しずつ生活音を聞いて自分で表現しようとする姿に変化していった。

音当てクイズでは、ある音を聞いて廃材を使い再現することに苦戦。「これじゃない?・・・ちがうな。」「たたくみたいな音だったよね?」などと言いながら、結局正解に導けずとも、正解を聞くと「それだ!」と嬉しそうであった。

【3 歳児】

オノマトペを普段の生活の中で楽しんで使う子どもたちの姿が見られ、取り組みをしてよかったと感じた。なぜなら、ひとつの音でもみな違うオノマトペで表現をし言い合うことで、互いの違いを知り、かつ違っていいことを体感できる優れたツールだと感じたから。

音の鳴り方の種類については子どもたちはぼんやりと分かった様子であったが、この経験が5年後10年後に花開くとよいと感じる。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都大田区東嶺町 5-17
園名	アスクおんたけ保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

ボールを研究してみよう

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

園庭がないので、運動用具に触れる機会が少ない。ボールに慣れ、親しみを持つことで運動能力の基礎を培う。

2. 活動スケジュール

1 1月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し身体の動かし方について子どもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てるようにする。

11月：ゴムボールやカラーボール、キャンディーボールなどを比べる。

12月：投げる、転がすなどをしながら重さや扱いやすさの関係について調べる。

1月：転がす、蹴るなどをしながら重さと扱いやすさの関係について調べる。

2月：少人数のグループで、ボールの違いや扱いやすさについて話し合う。

3月：既知のボール遊びを通してボールの性質を探究する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

ビッグサッカーボール
キャンディボール
新聞紙(手作りボール用)
ガムテープ(手作りボール用)
既存の様々なボール
トイレットペーパーの芯
風船

4. 探究活動の実践

1 1月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し身体の動かし方についてこどもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てるようにする
11月：ボールの特徴について話し合った。
12月：11月に気づいたボールの特徴を備えているものを複数用意し、蹴りやすさを比べた。
1月：複数のボールの投げやすさを比べた。
2月：転がす経験を試してみる。うまく転がすには？
3月：様々なボールで少人数ずつキャッチボールを試してみる。

<活動の内容>

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【5歳児】

はじめはボールの特徴を言いよんでいた子どもたちだったが、保育者が「どんな形？」と尋ねると、「丸い」と声をそろえた。そこから「転がる」「跳ねる」「中に空気が入っている」など、見た目のことから性質の特徴まで幅広い意見が出ていた。

蹴りやすさの比較では「足よりボールが小さいから蹴りにくかった。」と発言があった。それを聞いた他の子どもたちも試す行動があった。

ある子が「～だから～だと思う。」と考えを伝えると、他の子が「確かにそうかもしれないけど・・・」と、他の意見を伝える場面があった。

自作したボールや柔らかいボールを転がすボーリング遊びをすると、多くの子が「空気が少ないと転がりにくい。」と気づきがあった様子。自作したボールとカラーボールでは、

どちらが的に当てやすいかの意見が割れ、互いの意見を認め合う姿も見られた。

【4 歳児】

「ボールを・・・」と問いかけると「投げる！」「蹴る！」など、子どもたちから声が上がった。

蹴る活動の際には「風船は飛んで行っちゃう、前に行かない」と、他のボールとは明らかな違いを見つける姿があった。

硬いより柔らかいボールのほうがぎゅっと握りしめることができ握みやすいという発見もあった。

【3 歳児】

ボールはどんな形なのか問うと「丸だよ」と全員が言った。保育士が「丸じゃないものはどうしてボールじゃないの」と問うと、考え込んでいた。

投げる活動の際には「これは大きすぎるから投げづらいのだと思う。」など、投げやすさ投げにくさに理由をつけて話す姿が見られた。

キャッチボールの際には「新聞紙で作ったボールはフワフワする。」というので、保育士が「軽いつてこと？」と言葉を言い換えて伝え、正確に表現できるよう配慮した。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

【5 歳児】

ボールを複数用意したり、自分でボールを作ったりしたことで、よりボールが身近になり、子どもの「じゃあ～だとどうなる？」という試したい気持ちをすぐに試することができる良い取り組みだと感じた。

また、意外にも“転がす”動作が難しい子が多く、下手で転がしても地面に接地せず投げるようになっていた。力加減の調整がまだ不完全なのだ実感する出来事だった。

【4 歳児】

子どもたちなりにボールを使ってアクションを起こし、いろいろな投げ方や蹴り方を試す姿があり、安全な場所であればボールを使って遊んだら楽しいと感じた。

まずは興味を持ち、自分なりにうまく投げられるかの探求ができたのでよかった。

【3歳児】

ボールで遊びながら自分の感じたことを言葉で表そうとするが、まだ正確な言葉にできないところに面白さを感じた。

今回の取り組みでさらにボール遊びが好きになった様子なので、子どもたちが好きなお t 気にボールに触れる環境を、安全に気を付けながら整えていきたい。

